

## ビジネス日本語 B

釜淵 優子(関西学院大学日本語教育センター)

### 1. 本科目の目的と到達目標

本科目は、ビジネス場面でよく使われる問題解決フレームワークなどを用いたグループワークにより、日本語を使用した実践的な問題解決力の向上を目的とし、毎回グループメンバーと日本語でディスカッションを行い、時間内に必ず結論などの成果物を出すことを到達目標とした。

### 2. 授業概要

全 14 回の授業の内容は表1の通りである。授業は毎回異なるメンバーでのグループワークが中心であり、各回に模造紙やパワーポイントなどでの結論や成果物の発表を伴っている。

表1 「ビジネス日本語 B」授業スケジュール

1	オリエンテーション	8	マインドマップ
2	ブレインストーミング	9	キャッチフレーズ作成
3	ケースメソッド 1/マンダラート	10	自己マインドマップ・キャッチフレーズ
4	SWOT 分析 1(自己分析)/PREP 法	11	MECE
5	SWOT 分析 2(企業比較分析)	12	ケースメソッド 3
6	ロジックツリー	13	最終プレゼンテーション
7	ケースメソッド 2	14	自己・相互フィードバック

### 3. 成果と今後の課題

2013 年度の主な成果は、日本人学生にアシスタントとして授業に参加してもらった点である。上ヶ原キャンパスで3名、三田では2名の参加を得ることができ、グループワークでは各グループに 1 名日本人学生を配置できた。彼らに一受講生として参加してもらうことにより、日本語だけで問題解決の話し合いを行う必然性が自然に生じ、受講生同士の母国語での会話はほぼゼロとなった。これは非常に重要な成果だと考えている。また、毎回作業や発表の時間管理を徹底したことにより、学期後半には決められた時間内で、日本語でのディスカッションや作業を全員協力してまとめられるようになった点も大きな成果である。

今後の課題としては、グループワークと発表との時間配分があげられる。本年度はグループワークに比較的長く時間を割いたため、発表後のフィードバックの時間が十分に確保できなかった。今後は事前課題なども利用して、より効果的な時間配分を心掛けたい。